

## 基本紹介

台南園区と高雄園区の2つの園区からなる南部科学工業園区(以下、南科と略称)は、1991年に行政院が策定した「国家建設六年計画」の中で打ち出された「科学工業園区新設」構想に端を発します。そして、1993年に可決された「振興経済方案」で「南部科学工業園区増設」が提起され、1995年2月に国家科学委員会(以下、国科会)が「南部科学工業園区」(現在の台南園区第1期工区)設置を決定、5月には設置準備計画が承認されました。台湾南部はこうしてハイテク産業の発展に向かって大きな一歩を踏み出したのです。

台南園区は台南市の新市、善化、安定の3地区に跨って1043ヘクタールの敷地を有し、光電子、集積回路、精密機械、バイオテクノロジー、クリーンエネルギー等を中心とした産業が立地しています。また、国道1号線或いは国道3号線と国道8号線の新市インター、そして省道台1号線とは専用の連絡道で結ばれ、公共交通機関でも台湾鉄道・沙崙線の南科駅から無料巡回バスが園区に乗り入れるなど、外部とのアクセスにも恵まれています。

高雄市の路竹、岡山、永安の3地区にわたって570ヘクタールの敷地を有する高雄園区には、光電子、精密機械、バイオテクノロジー(医療器材)等の産業が集積しています。国道1号線の高科インターと専用の連絡道によってリンクされているほか、台湾鉄道の路竹駅および岡山駅とは省道台1号線で結ばれています。2010年9月13日には高雄捷運(KRTC)の連絡バス紅69Bが園区への運行を開始、今後、高雄捷運(KRTC)が路竹まで延長されれば交通の便も格段に向上することが見込まれています。また、小港国際空港から約30キロ、高雄港から約25キロと国際物流上もきわめて有利な立地条件にあります。



▼台南園区交通マップ



▼高雄園区交通マップ

